

日の出町の三多摩用ごみ最終処分場で起こっている問題を 絵本でアピール！

絵本の会 代表 轟正男

「くうの涙」(仮題)

<あらすじ>

おばけのくうは子どもたちがとっても好き。くうはいつもごみ処分場の煙突雲のふわふわが気持ちよくて遊んでいた。でも何も知らないくうは、その雲で汚染されてしまう。子どもたちはいつしかくうと仲良く遊ぶようになったが、皆が病気になってしまう。くうは自分のせいで病気になったと気がついて、大好きな子どもたちから去っていく。



知って！ごみ処分場の怖さ

* 本当のゴミ処分場の怖さ * 見えないものが、知らず知らず自然を壊し、子供達の身体を蝕み続けている怖さ * ずっと喘息・アトピーで苦しんでいる怖さ

気づいて！それは誰のせい

* 今も起きてる。今だけではない、未来がない！ * 森・水・空気が全て壊されて、戻らないかも！ * 外で遊ぶ子供たちの笑い声を消しているのは、誰！ * 子供たちを守るのは大人たち、声を上げないと！

手伝って！大切なものを取り戻して

* 絵本を手にとって、少しでも知って欲しい！ * 大切なものを取り戻して欲しい！
* 年内に 1000 冊作成し、500 円で頒布予定です。沢山の方に手伝って欲しい！

三多摩各市 400 万人のごみ最終処分場が引き起こしている問題が、なかなか解決することなく時間だけが過ぎていきます。処分場から出ている見えないものが、住民の健康に影響していることが分かっているのに、何で裁判で負けてしまうのか。データも資料も揃っているのに。本当に悲しくなります(泣)。裁判に勝っても負けても真実は一つです！

そのことを知ってしまった者としては、自分の心に留めておくのも良くないことです。

多くの方にどうやって拡散するか。できることを色々ともがき試行錯誤してきました。

そして私たちは、たまあじさいの会の中で、この問題をわかりやすい絵本にする、絵本の会として活動を始めました。全国のごみ処分場近くの保育園、幼稚園、小中学校、図書館などに、皆様のアイデアで更に拡散したいです。お力添えお願い申し上げます。

<問い合わせ先>

たまあじさいの会 絵本の会 代表 轟正男 syarihotu.todo@i.softbank.jp